

授業者と学生の相互行為がもたらす教育効果VI

— 授業通信に対する評価と受講動機の関連 —

○藤田 哲也 ・ 北神 慎司

(法政大学文学部・名古屋大学大学院環境学研究所)

北神・藤田(2007, 日教心, 前件発表)では, 主に, 受講前の達成目標志向が, 受講動機にどのような影響を及ぼすかが検討された. これを受けて, 本研究では, 学生の受講動機が, 授業通信や授業そのものの評価にどのような影響を及ぼすかについて検討する.

【方法】

受講生, 質問紙, 手続きなどの方法は, 北神・藤田(2007)に記載されているとおりであった.

【結果と考察】

各尺度の平均値およびSDを表1に示した. 授業評価アンケートの結果から示される授業自体の評価, ならびに, 授業通信質問紙の結果から示される授業通信に対する学生の評価はいずれも, 各尺度の評定平均値(意味的な中央値は3.5)を見る限り, 授業通信における「授業通信の必要性」を除いて, 概ね肯定的であったことがうかがえる.

表1 各尺度の平均およびSD

	平均	SD
初回達成目標		
遂行目標	3.14	0.96
習得目標	4.46	0.82
授業評価アンケート		
授業自体の評価	5.14	0.40
受講態度自己評価	5.04	0.44
授業通信		
コミュニケーション	4.30	0.92
授業通信への好意	5.27	0.80
授業内容への関心	4.33	0.96
情報受信	4.88	0.76
授業通信の必要性	3.63	1.11
最終回達成目標		
遂行目標	2.65	0.91
習得目標	4.16	0.81

次に, 学生の当該授業における受講動機が, 授業通信の評価にどのような影響を及ぼすかを検討するため, 次のような複数の重回帰分析(計7つ)を行った. 従属変数は, 授業通信質問紙の5つの因子得点(コミュニケーション, 授業通信への好意, 授業内容への関心, 情報受信, 授業通信の必要性)それぞれで, 独立変数として, 当該授業の受講動機質問紙の7項目(時間割, 教員好感, 他者推薦, 知識深化, シラバス, 単位容易, 卒業必要)を共通に用いた.

表2 重回帰分析の結果
(標準回帰係数 β が5%水準有意のもののみ)

従属変数	独立変数	β	t
コミュニケーション	教員好感	.120	2.07
	シラバス	.204	3.28
	単位容易	-.222	-3.23
授業通信への好意	他者推薦	.139	2.01
	シラバス	.219	3.49
	単位容易	-.217	-3.12
授業内容への関心	単位容易	-.188	-2.62
情報受信	単位容易	-.176	-2.46

その結果, 表2に示したとおり, 受講動機として, 「単位取得が容易そうだから」という理由があてはまらないほど, 4つの尺度(コミュニケーション, 授業通信への好意, 授業内容への関心, 情報受信)において, 授業通信を肯定的に評価していることがわかる. また, 「シラバスを読んで興味を持ったから」という理由があてはまるほど, 授業通信を, 好意的に, コミュニケーションツールとして評価していることがわかった.

最後に, 学生の当該授業における受講動機が, 授業評価アンケートによって測定される授業自体への評価にどのような影響を及ぼすかを検討するため, 次のような複数の重回帰分析(計2つ)を行った. 従属変数は, 授業評価アンケートの2つの因子得点(授業自体の評価, 受講態度自己評価)で, 独立変数として, 当該授業の受講動機質問紙の7項目を共通に用いた.

表3 重回帰分析の結果
(標準回帰係数 β が5%水準有意のもののみ)

従属変数	独立変数	β	t
授業自体の評価	シラバス	.166	2.71
受講態度自己評価	時間割	-.138	-2.29

その結果, 表3に示したとおり, 「シラバス」が受講動機となっている学生は, 授業自体の評価がより肯定的であることがわかる. また, 時間割上しようがなく履修していた学生ほど, 受講態度に対する自己評価が低いことが示唆された.